

片瀬だより

令和2年12月25日 発行
編集・発行 片瀬だより編集委員会
藤沢市片瀬3丁目9番6号
片瀬公民館
電話 (29)7171

片瀬公民館(本館)

ラジオ体操 ホール 8時40分～
1月14日(木)1月28日(木)
2月25日(木)3月25日(木)

おひざの上のおはなし会

2月16日(火)11時～
※申し込み 1月20日(水)～
3月16日(火)11時～
※申し込み 2月17日(水)～
対象 乳幼児親子5組程度



今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため事前予約制とさせていただきます

片瀬名画座『海～消えたプラスチックの謎～』

1月16日(土)14時～16時(開場 13時30分)
上映後、片瀬海岸のゴミ拾いイベントを主催されている方に、お話を伺います ※詳細は、広報・地域回覧をご覧ください

楽しく子育て 第1談話室

1月13日(水)子育て相談会
2月18日(木)親子リトミック (11時～のみ 15組)
3月10日(水)歯科相談

1回目10時～10時45分 2回目11時～11時45分
各回 4組



おもちゃの病院 1階ロビー

1月16日(土)2月20日(土)3月20日(土)13時30分～15時30分
※部品代がかかる場合があります。

片瀬しおさいセンター(分館)

赤ちゃん和妈妈のオイルトリートメント

2月8日(月)①10時～ ②11時～ 和室
生後3ヶ月～7ヶ月の赤ちゃんと保護者 各回 4組
費用 500円(植物オイル代)
※申し込み 1月21日(木)～



スポーツ講座「ソフトバレーボール」

2月12日(金)19日(金)26日(金) 全3回
10時～12時 体育室 定員 24名
※申し込み 1月18日(月)～



バドミントン開放

1月23日(土)31日(日)2月7日(日)
3月13日(土)21日(日)

卓球開放

1月31日(日)2月7日(日)20日(土)3月21日(日)

体育室 時間入れ替え制

※詳細は、公民館内のポスター・チラシをご覧ください



講師付き公開講座 体育室

1月22日(金)『日々の疲れを癒す健康ヨガ』
※申し込み 1月8日(金)～
2月2日(火)『日々の疲れを癒す健康ヨガ』
※申し込み 1月19日(火)～
3月8日(月)『椅子を使ってかんたん体操』
※申し込み 2月19日(金)～

各回 9時30分～10時30分

手芸のじかん～手芸好きな方のフリースペース～

1月25日(月)2月22日(月)3月22日(月)
10時～12時 工芸室
※材料・道具は各自お持ちください

Let's! Try片瀬! みんなにエールを!

3月6日(土)10時～16時
片瀬公民館・しおさいセンター

サークル発表会を中心に展示や舞台発表を行います。
※詳細は、地域回覧をご覧ください



サークル体験月間

3月8日(月)～28日(日)

気になっていたサークル
さんで、体験のチャンスです
事前申し込み制になります。



片瀬だよりが、ホームページでご覧いただけるようになりました。写真やイラストがカラーでご覧いただけます(一部除く)。右のQRコードもしくは『片瀬公民館』で、検索ください

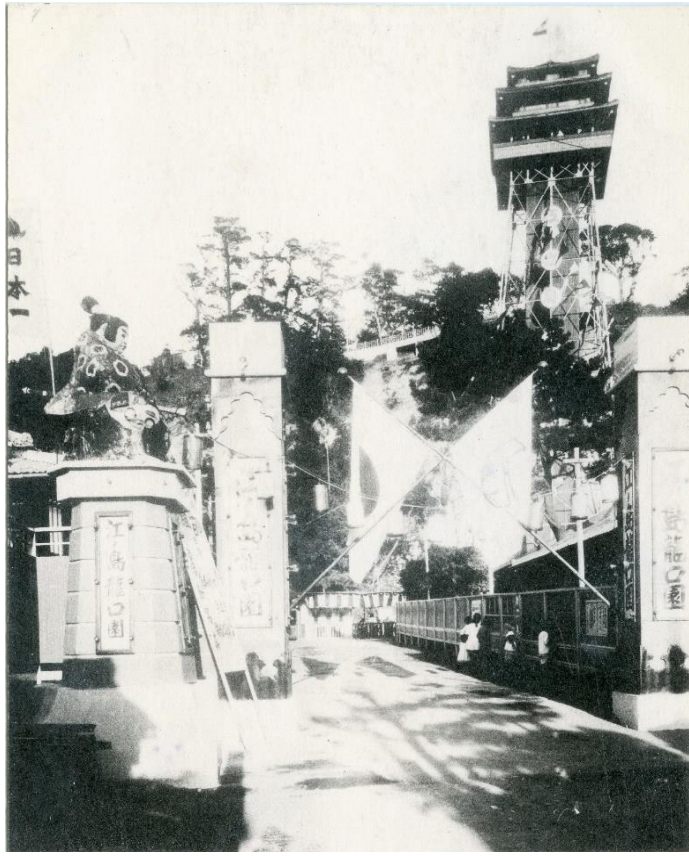


2021年6月ご利用分より、貸室は電子申請とさせていただきます

◎申し込みはすべて本館へ電話または来館で(平日のみ8時30分～17時)

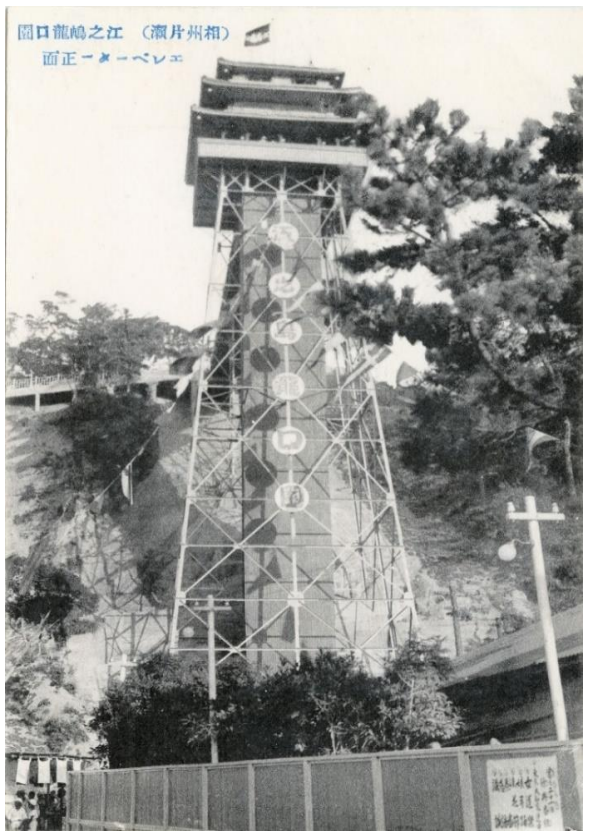
連載 第2回 「江の島龍口園」ものがたり 喜清 みずほ

昭和2年、龍口山の山上に開園した遊園地「龍口園」。園の施設として「地上から来園者を運ぶ巨大エレベーター6階展望台・滝・池・温室・小動物園・滑り台・ブランコ貸席・売店・食堂」などが当時の新聞に記されている。



龍口園入口。現在の東り町、常立寺と石材店の間にあった

さて、このたび片瀬在住の秋元龍子さん(90)からお話を伺う機会を得た。当時、龍口園エレベーターの真下に住まわっていた方である。
『窓をあけられれば』、港じゃなくてエレベーターが見えるんです(笑)』
毎日二階の窓から見たという光景を歌声とともに話してくださった秋元さん。何度も爆笑を誘う巧みなお話しぶりは、長く教職を務められたご経験からだろう。ちなみに秋元さんは、女性初の藤沢市小学校校長である。
『子供でしたからね、工事の記憶はないんです。突如として家の後ろにエレベーターができたように思いました。色は……そうですね、上の屋根根のようなどは金色っぽい色、全体は赤に近いオレンジ色のトタン板で覆われていました。嵐の時は留め金がゆるんで板がばたばたして、飛んでくるかと怖かったのを覚えています。』



右下の家が秋元さん宅

園が開業した翌年に小学校に入学した秋元さん。初めての遠足の行先が龍口園だったという。
『5月だったと思います。それまでは眺めるだけで入ったことがなかったから嬉しかったですね。学校からみんな歩いていきました。』
『エレベーターは降り降りする時にくんがくんしました。でも降りたらすごいです。江の島から相模湾、箱根、大山が一望に。西浜海岸の砂浜が、まあ広いこと！』
山上からの絶景に目を奪われながら、秋元さんは山の変わりようにも驚いたそう。
『兄と一緒にカブトムシやクワガタを捕まえに行ったものですが、木がすっかりなくなつて。山の上は三段になり、その一番上に展望台がありました。エレベーターよりさらに高く、景色をみていると怖くなり急いで降りてきてしまったほどです。龍口園は、とにかく眺めの素晴らしい場所でした。』
三段に整地されていたという山上の様子が、絵葉書にもはつきりと写っている。



内園口龍島之江 (原片州相)
近附屋小禽水壇花と遊覧展

展望台 (奥) 手前は水鳥小屋

（お願い）
龍口園について些細な情報でもお持ちの方は、片瀬公民館までご連絡下さい



一番手前で笑う女の子たちがご友人

秋元さんの明るい声が響く部屋で、白黒の絵葉書が温かく色づいていく。「まぼろし」が「現実」だったことを実感したひとときだった。
貴重な思い出をお話しくださった秋元さんに、心から感謝を申し上げます。(写真はすべて絵葉書。横浜開港資料館所蔵)

お弁当は平屋の家のようなどころで食べたそうで、「普段と違うお昼がうれしくて。ゆでたまごがいつもは一個なのに、このときは二個もあってニコニコ(笑)」
一年生ということでも、昼食後ほどなくして解散だったそう。
また、龍口園は夕暮れ時の記憶に自然と結びつくという。
『夏の間だけだったと思います。夕方になると、『宵闇—せまれば—』と「君恋し」が毎日拡声器から放送されました。小学生だから中身はなんだかわからないのですが、毎日なので言葉だけ覚えてしまっんです。「紅屋の娘」「野崎参り」もながれました。』
いままでもどんな資料にもなかった龍口園の音の記憶である。さらに園の絵葉書の中に秋元さんが親しくされていた姉妹が写っているとお話には、思わず「ええっ」と声が出た。
『こちらがFさん、こちらはその妹のIさん。本蓮寺の近くに住んでいました。実はIさんのお子さんをわたしが学校で受け持ったご縁もあるんですよ。』

ふるさと片瀬く今昔あれこれく③
中村 喬

「砂山があった!」

毎年、片瀬小学校の運動会を見る機会に恵まれている。古い卒業生の間でいつも、話題になるのが「砂山があった」ということだ。学校の東側、片瀬山の斜面が砂山になっていた。子どもたちにとって格好の遊び場だった。

三年生の時の担任はロングスカートが似合う優しい先生だった。教室の正面にはクラスの目標が掲げられてあった。「すなお」と書かれていた。読みなさいと言われて「おなす」と逆から読んだりしたやんちゃな三年生だった。先生は私たちをよく砂山に連れて行ってくれた。砂山の北側にあった松林の中の細い道を上がっては何度も駆け下りて遊んだ。先生は砂山の中ほどに座ってニコニコしながら私たちを見守ってくれた。

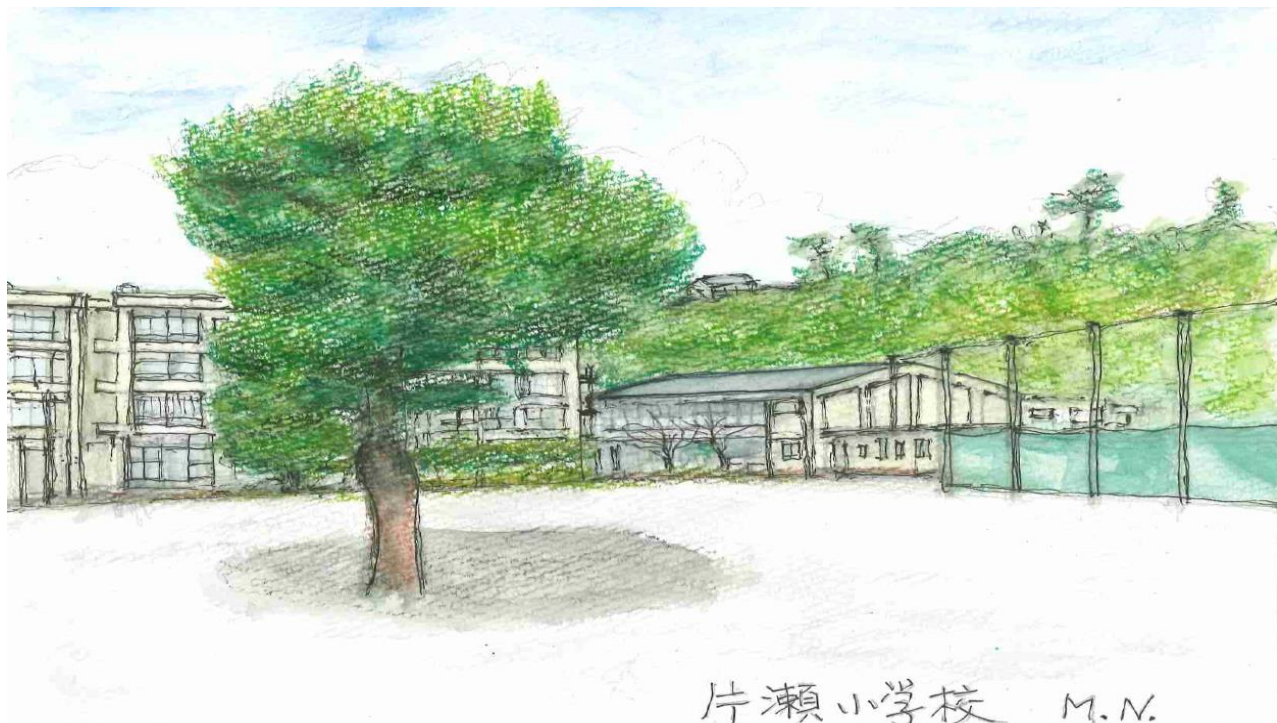
砂山での遊びに飽きると山に入った。春はつつじ、夏は山百合が咲いていた。掘りとりて学級の花壇に植えたりもした。秋はお目当てのカラスウリの赤い実、脚に塗るとかけっこが速くなると言われて信じた。常緑の松林の先に広がる冬の江の島の海はひとときわ美しかった。江の島には展望塔はまだなかった。

私は男ばかりの三人兄弟だが集まると砂山で遊んだ話になる。弟は「あまねっこ」と称して雑草の根っこを齧ったりもしたと回想する。甘いような苦いようなあの味が懐かしいという。

鉛筆が一本五円、キヤラメルが一箱二十円、クレヨン(12色入り)が小売標準価格で三十八円五十銭の時代であった。

鎌倉市片瀬町は藤沢市と合併し国民学校が藤沢市立片瀬小学校に校名を変えた頃の話である。学校では「子供銀行」が始まるうとしていた

【片瀬川流れて止まず年の暮】



片瀬小学校 M.N.



疫病除けのご利益があるとされる妖怪アマビエの絵に、たくさんのご応募ありがとうございました

片瀬市民図書館からのご案内

電話 (28)6935

市内に在住、在勤、在学の方ならどなたでも、一人6冊まで2週間借りられます。

開室時間

火曜日・日曜日

午前10時～午後5時

※新刊案内※ 令和2年11月現在

夜明けのすべて 瀬尾 まい子

善医の罪 久坂部 羊

相剋(越境捜査8) 笹本 稜平

ペルソナ 中野 信子

家時間 内田 彩仍

ちよぼ 諸田 玲子

渡沢栄一(世界の伝記NEXT)



〔編集後記〕マスクが必需品になるなど、新しい生活様式になり、世の中がすっかり様変わりしてしまっただけに思われます。アクリル板越しの会話、リモート会議などで時代の嵐を超えようとしています。心音が聞こえるような、本来の繋がりを求めたい、そう思いに駆られる昨今です。来年こそは、明るい年であることを願いつつ、新年を迎えたいと思います (石)